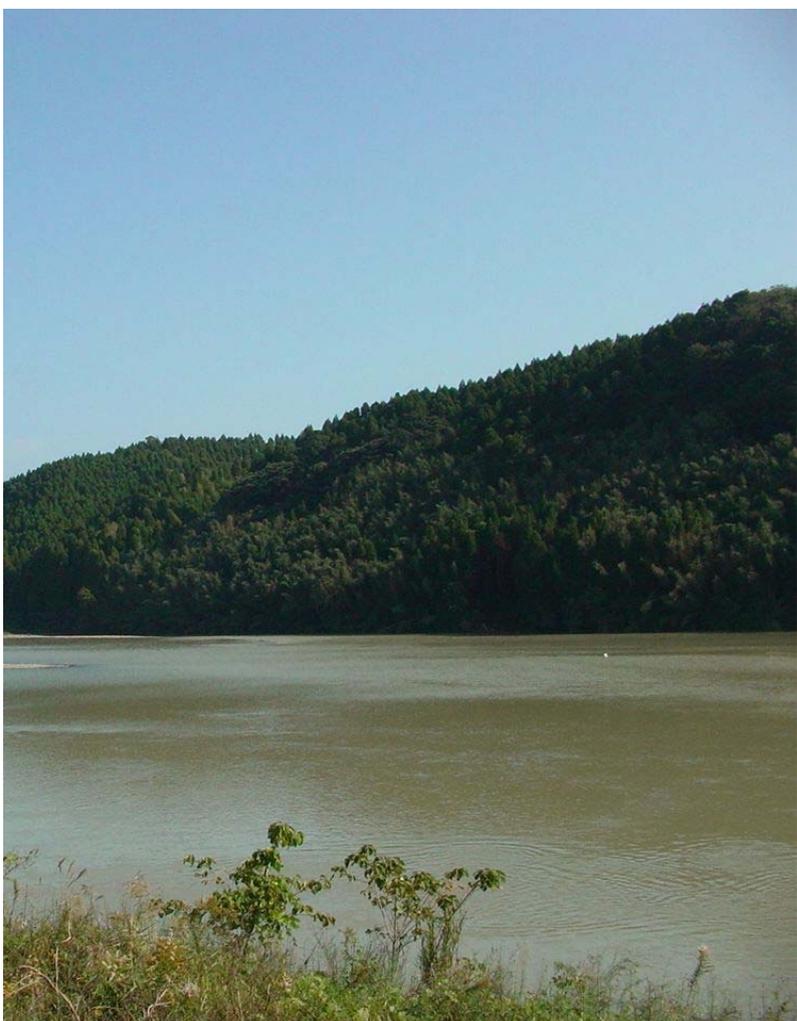


# 三. 水との戦い

みずとのたたかい

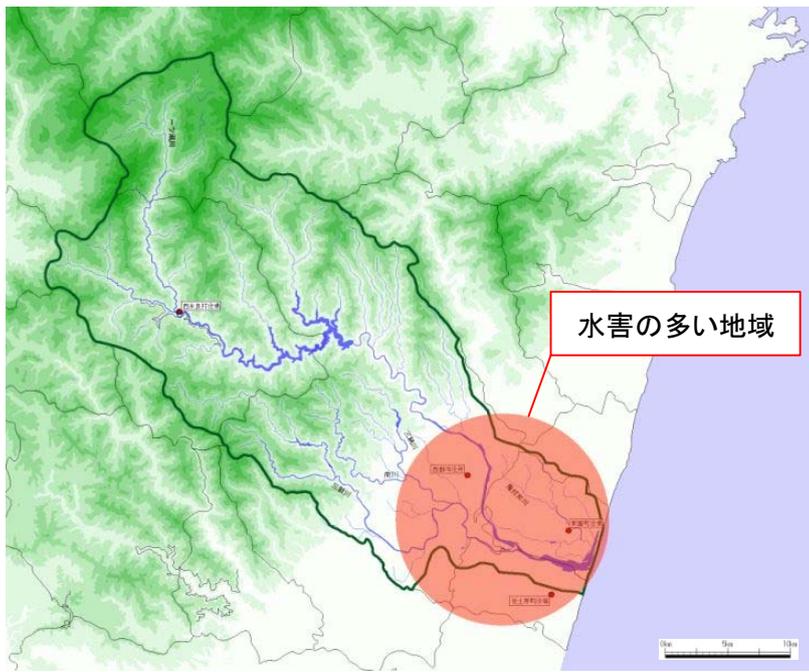


# ① 一ツ瀬川の水害の歴史 ひとつせがわのすいがいのれきし

ひとつせがわ りゅういき く りゅういき ひとびと ゆた めぐ おお  
 一ツ瀬川は、流域に暮らす人々に豊かな恵みをもたらすいっぽうで、大きな  
 わざわ 災いももたらしました。それが、台風などによる水害です。  
 りゅういき く ひとびと れきし みず たたか れきし  
 流域に暮らす人々の歴史は、水との戦いの歴史でもあったのです。

## (1) 水害の歴史 すいがい れきし

ひとつせがわりゅういき おお たいふう とお みち たいふう はっせい  
 一ツ瀬川流域は、多くの台風の通り道となっています。そのため、台風が発生  
 がつぜんこ おおく すいがい はっせい  
 する9月前後には、これまで多くの水害が発生してきました。  
 ひとつせがわ とく かわ なが ゆる すぎやすきょう かこう かん すいがい  
 一ツ瀬川では、特に川の流れの緩やかな杉安峡から河口までの区間に、水害  
 ひがい しゅうちゅう  
 の被害が集中しています。



写真：台風の被害の様子



どうして水害が  
 おお  
 多いんだろう？

## (2) 過去の水害 かこ すいがい

ひとつせがわりゅういき せんぜん げんざい おお すいがい きろく のこ  
 一ツ瀬川流域には、戦前から現在まで、多くの水害の記録が残されています。  
 とく しょうわ ねん たいふう ごう みのがわりゅういき こ いえ みず つ  
 特に、昭和41年の台風13号では、三納川流域の400戸もの家が水に浸かり  
 ました。また、多くの木橋も流され、そのため116戸もの家が一時孤立して  
 ひがい  
 しまうほどの被害が出ました。

今までどんな水害があった  
 のか、調べてみよう！



## ② 一ツ瀬川の治水の変遷 ひとつせがわのちすいのへんせん

たび重なる水害から暮らしを守るため、一ツ瀬川流域の人々は、昔から知恵と工夫を積み重ねてきました。治水の変遷は、流域の人々の水を治めるための努力の歴史ということが出来ます。

### (1) 江戸時代の治水 えどじだいのちすい

江戸時代には、一ツ瀬川に浮かべたいかだや小舟で、農作物や木材を河口の福島港まで運んでいました。佐土原藩では、こうした舟が一ツ瀬川を通りやすいように、浅くなった川底の土砂を取り除いたり、船着場の護岸を整備したりしました。

江戸時代にも、ちゃんと治水が行われていたのね。



### (2) 県内最初の河川改修事業 けんないさいしよ かせんかいしゅうじぎょう

明治時代になると、一ツ瀬川でも、川の流れを安定させるための工事、河川改修事業が行われました。一ツ瀬川は、昭和7年(1932)から、宮崎県の中でも最も早く、河川改修事業が行われました。それから約半世紀後の昭和58年、長い年月をかけて、ようやく一ツ瀬川の河川改修事業が完了しました。

写真：工事の風景



ずいぶん多くの方が、工事にたずさわっているんだなあ～





### ③ 一ツ瀬川の利水の変遷 ひとつせがわのりすいのへんせん

ひとつせがわりゅういき ひとびと みず おさ ちすい みず りょう りすい  
 一ツ瀬川流域の人々は、水を治める治水だけではなく、水を利用する利水にも  
 ちえ くふう つ かさ  
 知恵と工夫を積み重ねてきました。

りゅういき のうち うるお すぎやすいせき せき つく  
 流域の農地を潤すために、杉安井堰をはじめとした堰やダムが造られました。  
 また、堰やダムが造られる以前には、水車や揚水ポンプが活躍していました。

さらに、一ツ瀬ダムをはじめとして、水力発電のためのダムも建設され、流域  
ひとびと でんりょく きょうきゅう  
 の人々に電力を供給しています。



写真：一ツ瀬ダム



ぼくたちは、昔から  
 いろいろなかたち  
 で、一ツ瀬川を利用  
 してきたんだね。

わたしたちの暮らしを支  
 える一ツ瀬川を、これか  
 らも大切にしていかな  
 く  
 てはいけないわね！

